

赤ちゃんふれあい事業のご紹介

次代を担う思春期の中学生が、妊娠・出産に関する知識を学び、赤ちゃんやその家族とふれあう体験を通じていのちの尊さを再確認し、豊かな人間性を育む取組「赤ちゃんふれあい事業」。平成 28 年度からスタートし、平成 29 年度は八王子市立の中学校 25 校で実施します。

授業の内容・流れ（標準的規模校での例）

主な内容は、

- 1.助産師による「性と生と命」の講義（所要 1 校時）
 - 2.妊婦・乳幼児親子とのふれあいや妊婦体験ジャケットなどを使用した体験学習（所要 1 校時）です。
- 標準的規模の学校では、2 クラスずつ講義と体験学習に分かれ、前半後半で交代し、2 校時を使います。

1. 講義 以下の内容などを中心に映像や模型を使いながら行います。

項目	内容
①生のつながり	生と命と性
②性と愛	性とは自分らしく生きる事。性における愛を考える。
③性と自己決定	性の自己決定という考え
④命の始まり	精子と卵子の特徴、受精卵の特徴
⑤胎児の発育	妊娠週数と胎児の発育
⑥命の誕生	出産の仕組み
⑦赤ちゃんの力	自分の力で泣く赤ちゃん
⑧まとめ	「命ある自分」の素晴らしさ 生まれて来た事・存在する事に価値がある。 「心と体」を守る事の大切さと権利 「生きる」事と命を受け継いでいくという事



2. 体験学習

助産師会の司会進行のもと、グループに分かれた生徒が交代で各テーマ（下記①～④）のコーナーを回り、体験します。妊婦や乳幼児親子には、ボランティアで参加していただきます。

①妊婦さんとの交流…お腹を触らせてもらったり、話を聞き、質問したりする。

（妊婦さんと生徒の話がはずむように、保育士・保健師・児童館職員などの補助者が入る。）

②妊婦体験…生徒が妊婦体験ジャケットを装着し、座ったり立ったり、いろいろな動作をする。

（腰を痛めないよう、大人の補助がつく。）

③乳幼児親子とのふれあい…実際に赤ちゃんとのふれあい、保護者の方の話を聞き、質問したりする。

（親子と生徒の交流が進むように、保育士・保健師・児童館職員などの補助者が入る。）

④赤ちゃん人形抱っこ体験…新生児を模した人形で、赤ちゃんの重さや首の座っていない様子などを実感する。（アドバイスをを行う大人が付き添う。）

このほか、胎児人形や幼児視野体験を行う場合があります。また、交流のファシリテーター役、ジャケット装着補助など、PTAの保護者などの協力者が必要な場合があります。

※講義・体験学習は八南助産師会（後述）に委託しており、ベテラン助産師が十分な配慮のもと、実施しています。

※効果的な実施と参加者の安全確保のため、PTAや地域の皆さん（民生児童委員や学校サポーター、地域のNPOなど）の協力を得ています。

※近隣の保育園・児童館・保健福祉センター・子育てひろばなどが、妊婦・乳幼児親子の募集や当日の運営に協力しています。

※体験学習に参加してくださった妊婦・乳幼児親子には、助産師会からささやかなプレゼント（ハーブティなど）をお渡ししています。



参加した生徒たちの感想

- 色々とお親に言われることもあって「めんどくせえ」と思う時もあるけど、今日の体験や話を思い出して、一回整理してから物事に取り組めるように頑張りたい。どんな親も、子どもには元気でいて欲しいと願っているということがわかった。
- 自分の命は沢山の人の支えられて生きていられることがわかった。大人になっていくと、「自分で決める」という場面が多くなっていくけれど、ひとつひとつに責任を持って行動していきたいと思った。
- 自分が勝手に生まれたわけではないという事や、妊婦さんがどれだけ辛くてどれだけ大変か、今日改めて知った。妊娠している時には7kgほどの大きなものをおなかにつけていると知って、実際につけてみると、しゃがむのもすごく辛かった。また赤ちゃん人形を抱っこした時には、とても難しいと分かり、大変さもすごく分かった。
- まず自分が産まれてきた事がどれだけ素晴らしい事なのかを改めて考えられた。もし自分に子どもができたら、母が自分を育ててくれているように、大切に育てていきたいと思います。この講演会を通して、お母さんの苦勞や自分の命や人の命がとても大切だという事が改めて考えられたし、実感できたので良かったです。
- 妊婦さんのお腹の中で赤ちゃんが聞いている音や赤ちゃんの心拍を聞かせてもらいました。また、実際に自分の手で妊婦さんのお腹をさわらせてもらって動くのを感じ、貴重な体験ができて良かったです。妊婦さんのお話を聞いて、妊娠したときの嬉しい気持ちやつわりの痛みの辛さなどがよくわかりました。赤ちゃんが生まれてから毎日書いている日記を見せてもらって、お母さんが赤ちゃんのことをとても大切に思っていることが伝わりました。
- 出産時には約15時間かかると聞きました。ぼくたちには痛みを理解することは難しいですが、赤ちゃんとおふれあってみて、とてもかわいかったです。また、一緒に遊んでいて、親しみを感じました。出産がんばってください。応援しています。
- 助産師さんの話を聞いて、自分は男性としてしっかりと相手のことを考えなければならない、ということに気づかされました。さらに一人ひとり赤ちゃんのころから個性をもっていて、今の自分には出来ないことなどをしていておどろきました。今回の話を聞いて性や赤ちゃんに対する考え方が変わってよかったです。
- 命のことに関しての授業は初めてだったので、すごく心に残ることがたくさんありました。これから進路を決めていく中で、1つしかない命を大切に生きてきてもらった分、大切に生きていきたいと思えるきっかけになりました。これからたくさんの人に支えられながら頑張っていきたいです。
- 最初は、出産は痛くて、怖くて、不安なものというイメージがありましたが、今回の授業を通して自分も子どもが欲しい、と生まれて初めて強く思いました。また、助産師さんの講義では「命」の重みや、妊娠・出産についての知識を得ることができ、とても勉強になりました。一生に一度の素晴らしい体験を、本当にありがとうございました。
- 私は正直、赤ちゃんはあまり好きではなかったと思っていました。しかし、今回おふれあった赤ちゃんはとてもかわいくて、心が温かくなりました。本当にかわいかったです。不安なことも多いなか、わざわざ足を運んでおふれあわせていただいて、本当にありがとうございました。
- 私は今まで子どもがほしくない、と思っていました。ですが、今日の助産師さん、妊婦さん、赤ちゃんのお母さんなど、沢山の方々からお話や体験をさせてもらううちに、子育ては大変だけど、やりがいを感じ、笑顔になれるのであれば、子どももよいな、と考えが変わりました。また、私には下の子はいないので小さい子を育てる大変さは分かりませんが、妊婦体験や赤ちゃんとおふれあうという大変さ、楽しさは今日初めて知ったので、よい体験となりました。これを将来に生かしていきたいです。

○養護教諭より

受精卵（命のはじまり）は直径約0.1ミリ。紙に細い針で開けたくらいの大きさです。握りつぶせば簡単に潰せてしまえるその「命」を、お母さんや、その周りの人たちが温かく大切に見守り、声をかけ、愛情込めてお腹をさすりながら育ててくれました。中には無事に育たなかった命や、誕生日が命日の命もあります。それでも、今ここにいるみんなには「生命力」があって、10ヶ月後に無事にこの世に生まれてきました。それだけで奇跡。助産師さんは「赤ちゃんは生まれる日も、生まれ方も、自分で決め、自分にとって一番ベストな方法で生まれてくる」ともおっしゃっていましたね。まだ言葉も話せず、歩くこともできないけれど、お腹の中にいる時から確実に「生きる力」や「意思」を持っていたということなのかな、と思います。

ちょうど今、自分の生き方（進路）を決めていく時期になりました。自分は将来どんな仕事をしたいのか。誰と付き合っ、どんな人生を歩みたいのか。生きていく上で自分は何を大切にしていきたいのか、逆に絶対に譲れないことは何なのか。そんな中で葛藤したり悩んだり・・・そんなことも出てきますよね。人生はずーっと「選択」の連続。

そしてその一つ一つの行動や生き方は「自分が選択する」。選択したからには責任をもつ。

大人になった私もまだ完璧ではない。まだまだ考えることや、試してみることが沢山ある。めげることもある。「選択」することに悩むのは大人も子供も関係ない。同じ人間として、「まかされた」自分の命をみつめ、ゴールを目指して日々生きていこうね。

○参加したママたちの感想

- 育児で慌ただしい生活をしていると、生まれてきた時のあの嬉しかった気持ちを忘れがちでしたが、質問されると思い出す機会ができてよかったです。子どもを抱っこしてくれたのも嬉しかったです。毎回楽しみにしている授業なので、これからも続いてくれるといいなあと思います。貴重な時間をいただき、ありがとうございました。
- はずかしがらずにふれあってくれて、娘も楽しんでいました。1歳を過ぎていましたが、中学生にとってはまだ「赤ちゃん」として、慎重になっている姿がかわいかったです。また、機会があったら参加したいと思いました。ありがとうございました。
- 普段、中学生とふれあう機会がないので、「命の授業」を通して直接お話しできてよかったです。私たちの時はこういう授業がなかったので、うらやましいと思いましたし、続けてほしい。
- 中学生の皆さんが子どもたちにとってもやさしくくださって、積極的に質問もしてくださって、とてもよい時間を過ごすことができました。子どもたちにとってもお兄さん・お姉さんとふれあえる貴重な機会なので、これからも続けていただければと思います。

八南助産師会のご紹介

(八南助産師会ホームページより抜粋)



正式名称は「公益社団法人 東京都助産師会 八南分会」。八王子市、日野市、多摩市、稲城市に住所又は現場のある助産師で構成されています。

助産師は産婆と呼ばれていた昔より、女性最古の職業として誇り高く生きてきました。また、女性の性と生に寄り添う仕事であるため、女性たちに頼られる存在でもありました。正常な経過をたどっている産婦であれば、医師なしで分娩の介助が行える開業権を持っています。

妊娠中、子育て中の女性たちの良き相談相手となれるよう、助産師会を拠りどころとして、それぞれの助産師のパワーを高める場としてありたいと願っております。

〈ホームページ〉 <http://hachinan-midwife.com/project/> (八南助産師会 赤ちゃんふれあい事業)